

27-6 経営協議会議事概要

日 時 平成28年1月27日（水）15:30～17:02

委 員 駒田学長（議長）

青木，志田，鈴木(英敬)，銭谷，高木，西岡，向井，村本，渡辺
山本，鶴岡，尾西，加納，鈴木(英) 各委員

列席者 富樫，後藤，各副学長，武田参与 橋本，山中 各監事

◎議事概要の確認

27-4，27-5の議事概要(案)について，了承された。

I 審議事項

なし

II 報告事項

1. 第3期中期目標原案及び中期計画案について

尾西理事から，「資料1-1～1-11」に基づき説明があった。

〈主な意見〉（○委員側 ●大学側）

- 数値目標が明確で分かり易い。
- 「三重県における小学校教員の占有率を35%に増加」とあるが，教員の質を上げるための見通しはいかがか。
- 教職大学院の設置と連動し，県や他の大学と連携しながら，養成した教員の質向上のために教育・研修を行っていく。
- 教員は，一般社会と乖離しているように感じることがある。学生時代に，塾や家庭教師の仕事を経験することが役立つと思われる。
- 戦略先レベルに落として，実現可能性を高めていくかが重要である。
例えば，中小企業との共同研究では，後継者対策のような間接的な連携の仕組みづくりが必要である。
- グローバル化の分野について，特に期待している。海外の訪問先では，三重県と三重大学と一緒に産業政策を行っていることに対する評価が極めて高いので，大学の交流対象には世界各国・地域自治体も含んでいると解釈し，今後も伸ばしていただきたい。
- 三重県に愛着を持つ学生を育成することを，基本理念に入れてもらいたい。

2. 平成28年度概算要求事項について

鈴木理事から、「資料2-1～2-4」に基づき説明があった。

〈主な意見〉

- 三重大大学の人件費比率が低いが、どういう状況か。
- 様々な研究費を獲得し努力した結果、比率が低くなったと考えている。外部競争的資金を活用して、若手研究者を中心に優秀な人材を確保していく。

3. 給与改定の方針について

鈴木理事から、「資料3」に基づき説明があった。

4. その他

(1) 次回開催について

平成28年3月23日(水) 15:00から開催することを確認した。

Ⅲ 意見交換

1. 若者を地域に留め置く三重大大学の機能の強化策について

学長から、第3期中期目標・計画案に記載されている県内就職率10%達成に向けて、各委員から意見を賜りたい旨説明があり、意見交換を行った。

〈主な意見〉 (○委員側 ●大学側)

- 地域に配置したコーディネーターが役に立つ。企業にキャリア教育をしてもらうことが効果的である。
- 三重大大学主催の就職セミナーの在り方を見直して欲しい。
- 鈴鹿医療科学大学では、県内に医療機関が少ないので、県外から学生を集めて県外に就職させなければ、経営構造として成り立たない。同様に、県内に学生の受け皿となる企業が少なければ県内に就職先を確保できないので、この問題を解決するには、三重大大学の努力だけでは限界があり、県内の経済界と協力して企業を育成していく必要がある。
- 県内に優良企業、魅力的な企業等を増加させることや、企業の本社・中央官庁の誘致などを行政と協力して行うことが重要である。また、三重県出身の優良なオーナー企業への採用をお願いし、相互の関係を深めることも有効であり、これは寄付金の獲得にも繋がる。一方で、県外の優良企業に就職して三重大大学の知名度を高めることも必要である。
- 三重県・三重大大学の印象は、日本の平均的・中庸的な県・大学で、尖ったところが無いという感じを受ける。もう少し尖った方が良いと思う。
- 大学は、県外出身者を入学させて県内に就職させるのが理想である。東京大学が理想に近い。県外出身者にとって魅力的な大学にすることが大切である。
- 三重大大学の学生に三重県及び三重大大学の歴史、所謂、地域学を教養教育など

で、教育して欲しい。

- 若者が県内に残るためには、世界と繋がった地域、グローバルに活動している地域であるという印象が必要である。海外渡航者の数が少なすぎるので、大幅に増やして欲しい。例えば、外国に行かせたり、留学生と交流させるなど、何らかの形でグローバルに生きていることを、学ばせたり経験させて欲しい。
- 地方創生のため、最も地域密着型の学部である人文学部、教育学部を大切にしたい。
- 人文学部・工学部・生物資源学部の県内就職率が著しく低いので、学部別の対策を丁寧にすることが重要である。
- 県が実施したアンケートによると、進路を決める場合における母親の影響が大きいので、母親への対策が有効と思われる。
- 学長が県内の経済界や首長のところへ直接赴いている営業姿勢を、現場まで浸透させることが大切である。
- 1年次から、地域で地（知）に加え、情に訴える実習を取り入れることが有効なので、実践して欲しい。
- 三重県には魅力的な企業が多くあるが、それを学生にPRする力が不足していると感じるので、大学と企業が協力して学生に伝えるべきである。
- 県内出身者を増やせば、県内就職者も増えると思われる。
- 学生がどのような観点で就職先を決めているのかの意向調査を踏まえて、県内企業を選択するのが良いのではないか。
- 意向調査はしていないが、学部の就職担当教員からの聞き取りによると、地元志向、大手企業、安定企業、保護者の意見が就職決定の主な要因と思われる。
- 三重大学に魅力ある学部、分野を広げることが必要である。
- 学生へのメッセージはどうするのか。
- 中期目標・中期計画が決定してから周知する予定である。
- 18歳の若者を集めることより、22歳の若者を定着させることが必要である。
- 企業側の問題ではあるが、学生は大企業、安定企業への就職志向があるので、技術力のある優良な中小企業が企業群を形成しホールディング化することによって、規模の利益を追求し、優秀な学生を集めようとする動向がある。

以上